五つ葉新聞

【発行日】

11月12日

体育祭への道のり ～ スローガンに導かれて ～

体育祭の取材はスローガンである「掴め栄光　動かせ心　轟け我らの応援歌」について生徒会会長の松本周太さんにその思いをインタビューするところから始まった。

松本さん【「掴め栄光」という言葉には両色の勝利健闘を願う意味があり、「動かせ心」には、本気の応援・本気の行進・本気で競技に取り組む姿勢により自分・仲間・相手そして見ている人の心を動かそうという決意を示しています】

【そして「轟け我らの応援歌」には、普通の応援や校歌斉唱に留まらずに久寺家中学校の応援や校歌を世界に響かせるんだという強い意志が込められています。

このスローガンを作成するにあたり全校から出た意見を基に生徒会で話し合いを重ねました。良いものを抜粋しマッピングし、一つずつ時間を掛けて選び…。スローガンが決定するまでに約二週間もかかりました】

掴め栄光　動かせ心　轟け　我らの応援歌

一方、私達は連日辛い練習を重ねていた。体育祭練習期間での最初の様子は応援団と団員の熱意の差が激しくまとまりもなく、厳しい暑さのせいなのか団員の動きも鈍く全てがだらだらとしていた。

しかし応援団は決してあきらめずに、目の色を変えて必死に団員への呼びかけを続けた。その結果、団員にも徐々に熱が伝わり一生懸命取り組むようになってきた。

後半の応援練習では、全員が全力で声を出し全力で踊っている姿が見られるようになった。

全体練習や学年練習では集合時間に遅れることがあったが、皆の意識が変わり始めるにつれてすばやく時間通りに練習を開始することができた。

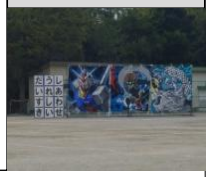
「閉会式の校歌は根戸小近くまで力強く響いていた」と、ある保護者より伺うこともできた。

全校生徒の思いを生徒会がスローガンにまとめ、応援団や係が皆に気持ちを伝えていき、全校が一丸となってお互いの熱意に応えていく。

皆の心が通じ合うことで、久寺家中らしい体育祭を作り上げられたのだと思う。

応援団 Q&A

	お互いの良い点は？	アピールポイントは？	「推し」の応援は？	最後に意気込みを！
土屋　海陽さん 河西　祐太朗さん	【土屋さん【ワイワイ楽しく応援しているところ】 【河西さん【みんなが声を掛け合い、男女問わず教え合っているところ】	【土屋さん【ポンポンを使った鮮やかで迫力のあるダンス】 【河西さん【皆、真面目でとても団結していて一体感があるところ】	【土屋さん【CMでお馴染みの『クリアアサヒ』の応援】 【河西さん【誰でも歌い易い『誇り』とテンション上がる『アゲホイ』の応援】	【土屋さん【正々堂々と戦い、全力で三冠を取りにいく】 【河西さん【努力を重ね、とても良い出来になっています。三冠、取ります！】
勝股 倖さん 須田　雄太さん	【勝股さん【とも明るくて、しっかりと声を出せているところ】 【須田さん【団長中心に団結して本気で取り組んでいるところ】	【勝股さん【積極性があり、皆の仲が良く団結しているところ】 【須田さん【全員が思いをひとつに全力で本番まで取り組めるところ】	【勝股さん【ダイナミック琉球」です。声が出やすく一番盛り上がります】 【須田さん【みんなが楽しんで大声をだせる「アゲホイ」の応援】	【勝股さん【三冠を取る…しか、考えていません！全力で勝ちに行きます！】 【須田さん【思いをひとつにして三冠を全力で取りに行きます】



二学年が選ぶ ベストショット！

BEST 1

二年生全体で「印象に残った場面」を投票した。ベストショットは青組団長が男泣きした場面。団長の男泣きは印象深くかっこよかった。

クラスの絆を運べ！クック宅急便〈再配達〉

体育祭で二学年が行った競技は三つ。「走るよ～！（徒競走）」と「思いを込めてマストを立てろ！」、そして去年行った競技を進化させた「クック宅急便〈再配達〉」。

競技をしている自分達だけではなく見ている人たちにとっても楽しめるユニークなレースだ。

ルールは簡単。四つの段ボールを運んで一番にゴールした組が勝ちという、至ってシンプルなものにもかかわらずハラハラ、ドキドキするのには理由がある。

昨年には無かった「在宅・不在」カードが、新ルールとして加わったのである。通常、体育祭の競技では「走力やパワー」が結果に大きく関係してくると思われるが、「クック宅急便」は「時の運」こそが勝敗を分ける重要なポイントになったのだ。

宅配人が「在宅カード」を引けばそのまま順調に進めるが、「不在カード」を引くと「不在票」を取りに一旦、来た道を戻らなくてはならない。足の速さで一位になっていたとしても、最後まで気を抜くことはできない。練習から本番まで「在宅」を引く人もいれば、とてつもなく運が悪く「不在」を引き続ける人もいるようで…（その人の体育祭での個人的な目標は「在宅を引く」だった）。結果は見事「不在」…。来年の体育祭ではこの競技、いったいどのような進化を遂げるのだろうか？非常に楽しみだ。

まとめ

今回の体育祭では良かった点も悪かった点どちらも出た。良かった点は両色とも全力で声を出して応援し、全力で競技に取り組めたことだ。勝っても負けても後悔のない結果を残すことができた。悪かった点は実行委員や応援団その他の係の人達に支えてもらうばかりになってしまい、自主性が足りなかったということ。言われてから、注意されてからやるというダラダラとした行動が続いていたということだ。

結果は青組が三冠を取ったが両色とも全力で戦い、練習してきたものを全て出し切れた。体育祭で得たものを次につなげられるよう広報部会としても心掛けていきたい。

編集後記

「五つ葉新聞」第二号、いかがでしたか？前回よりも「興味深い内容を！」「見やすいレイアウトを！」とレベルアップに努めたところ発行が遅れてしまいました。

「自分たちの良さを知り、お互いを認め合うことが次の久寺家中を作る最初の一歩になる」五つ葉新聞を通じ、少しでもそのお手伝いが出来たらいいなと思います。

次号は今よりもっと皆さんに親しんでもらえる新聞を作りたいです。乞うご期待！